

やすき通信

訪問看護ステーション 穂

2020年 梅雨号



自分で食べることができるシアワセ



入院前はうどんが大好きでよく食べていたIさん。心不全で入院し、嚥下障害を発症してしまいました。VF結果では誤嚥リスクが高いと判断され、胃瘻増設を勧められましたが、本人も長女さんも拒否。可能な限り口から食べたい、食べてほしいと希望されました。全身状態が回復し自宅退院となりましたが、食事形態はムース食。あんなに好きだったうどんは食べられないまま、、、。

初回訪問時に食事場면을評価。咽頭期障害と咳嗽力が弱いという問題点はありましたが、義歯がきちんと合っており咀嚼能力が良好であること、舌や口腔運動の問題はなく口腔期は保たれていることに焦点を当て介入をしていきました。

ブローイング、呼吸リハなどの訓練を取り入れながら、食事場面では咀嚼運動から有効な嚥下反射を誘発していくことを繰り返し行いました。段階的に食事形態をアップし、現在は軟飯と常食一口大を摂取できるまでに回復しました。また入院中は全介助で摂取していたIさんですが、お箸で自力摂取できるようになりました。

もちろん、大好きなうどんも食べられるようになりました(^^)v



看護師・日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士：藤中雪子

ジムまでの道のり ～多発性硬化症～



転倒にて右大腿骨頸部骨折を呈したUさん(70代 女性)。退院後、痛みはないものの右下肢の筋力が著明に低下しており、「痛くないのになぜ歩けないの?」が最初の訴えでした。既往に多発性硬化症があり、ふらつきや力が入りにくいなどの歩行障害、理解力低下や忘れっぽいなどの精神症状がみられているため、なぜ歩きにくいのか理解できていませんでした。ご家族からは「家から出ることが少なくなって頭を使う機会が減っているので、認知面の低下が心配。」との訴えが聞かれていました。

リハビリでは筋トレ、階段昇降、屋外歩行を実施。歩行は介助が必要な状態ですが、筋力向上とともに徐々に距離が伸びていきました。30分程度の屋外歩行が可能となったため、頭を使う機会として買い物に行きました。「買い物なんてしなくていい!」と言いながら歩いているとパン屋を見つけ「ここに寄りたい!」と入って行きました。店内では右手にトング・左手にお盆を持ち、楽しそうにパンを選んでいました。



今まで見たことないくらいしっかりと歩いていました。食パンと菓子パンを購入し、お金の管理も特に問題なく可能でした。現在、買い物に行きたいときはしっかりと化粧をし、お金とバッグを準備して訪問が来るのを待っています。最終目標は以前から通っていたジムへ行くことです。バスの乗り降りや人混みでの歩行などまだまだ課題はありますが、コロナの影響でできることも限られています。コロナの影響が消え去る頃にはバスの乗り降りが1人でできるようになることを目標に、今はしっかりと歩いております。



作業療法士 船原千寛

感染対策について



緊急事態宣言が解除され、普段の日常に戻りつつありますが、第2波の可能性も否認しません。

穏スタッフは標準感染予防策をベースにし、適切な感染対策をしながら安全なケアを行っていきます!また、スタッフ自身も自らの体調管理に努めます。

管理者こだまの一言

新生★穏としてスタートし、あっという間に1年が経ちました。

今年に入り、新型コロナウイルスによる自粛要請で長期間ストレスのある日々を過ごされた事と思います。暖かい春を感じる事ができずにいた皆様へ少しでも温もりと安心を届けることが出来たらと思っています。

管理者：児玉恵美子

医療法人優誠会 訪問看護ステーション穏(やすき)

〒811-1314 福岡市南区的場2丁目37-2

TEL: 092-589-3011 FAX: 092-589-3021